

## 日本のこころ⑤ 「代表的日本人」 内村鑑三

### 1 ウォーミングアップ①

- ① 虎の威を借る狐
- ② 火山が噴煙を上げる
- ③ 象牙の塔にこもる
- ④ 文武両道
- ⑤ 彼はツッコミどころ満載だ
- ⑥ 日系米人二世
- ⑦ 子役から脱皮する
- ⑧ 名実ともに
- ⑨ 備蓄米
- ⑩ 山籠もり
- ⑪ 霊山
- ⑫ もやがかかる
- ⑬ 「我れ日本の柱とならん」
- ⑭ 見て見ぬふりをする
- ⑮ ポプラ並木
- ⑯ 非モテ
- ⑰ 適材適所
- ⑱ ウドの大木（比喻）
- ⑲ たたき上げの人物
- ⑳ ドーナツ化現象

## 2ウォーミングアップ②

- ①彼は坂本龍馬と人気を二分する。
  
- ②彼らが西郷を担いで決起した。
  
- ③桜島に彼の姿を投影する。
  
- ④錦江湾を隔てて桜島が見える
  
- ⑤彼は新政府にしがみつかなかった。
  
- ⑥彼は科挙に合格して行政に携わる。
  
- ⑦勉強だけではこどもの個性が伸ばせない
  
- ⑧財政破綻寸前の自治体
  
- ⑨杉の木にしめなわが張られている。
  
- ⑩彼には一神教的な非寛容さがある。
  
- ⑪彼は米蔵を開けてもらえるよう直談判した
  
- ⑫彼は誰にも何も告げずに蒸発した。

⑬彼は世の流れや空気の動きに応じて動かされていた。

⑭日本には「天に見られている」という考えがある。

⑮「上杉鷹山」といっても私にはピンとこない

⑯この町は現状を何とか打破すべく試行錯誤を重ねている。

⑰人々は人口減少や地域の崩壊という現実直面している。

⑱自分の価値基準は四書五経や世間にあるのではない。

⑲彼らは自分の生活とは関係の薄い事柄を必死に詰め込む。

⑳「誕生寺」とは読んで字のごとく、彼の誕生を顕彰して建てた寺だ。

## 2 翻訳

①鷹山の儉約イメージから、米沢は質実剛健で武骨なお国柄かと思えば、能を楽しむ余裕もあったとは意外であった。

②独善に走らないためにも、学問をする必要がある。陽明学の「学問」とは日常の仕事に真剣に取り組むことによって学ぶことであり、がり勉による机上の空論ではない。

③彼は教育勅語に最敬礼をしたり、戦争に同調したりという周囲の「空気」に流されなかった。

④一文無しから頑張ってきた彼らが心の拠り所にしたのも、二宮金次郎の精神だったのだ。

⑤彼は質素儉約という「自助」のみならず、儉約した余剰を積極的にみなに与えることで、貧困者を助ける「共助」の精神に思い至った。

(宿題はここまで)

3 通訳（受講日までご覧にならないでください。）

①それはたとえていうと手取りで月収120万円だった人が15万円になったにもかかわらず、120万円のころと同じく湯水のように金を使っていたようなものだ。

②彼は人々に贅沢をやめさせるため、三度の食事を粥にすることで、上に立つ者としてのあるべき姿を示した。

③その豪華絢爛な六枚からなる屏風には2500人もの生き生きとした老若男女が描かれており、往時の京都の様子が手に取るようにわかる。

④現在あらゆる自治体が財政面に関しては「三割自治」であり、永田町・霞が関に「おんぶにだっこ」だ。

⑤彼は土地の現状を詳細に調べるためのデータベース作成からはじめ、数値に基づいて村の問題をあぶりだそうとした。感情だけでもお勘定だけでも公共事業はできないのだ。

4 スピーチテーマ

①A 借景 B 超高齢化社会 C かるた

②A 城下町 B 尊王攘夷 C 湯治

③A シャッター街 B 双六 C 御神木